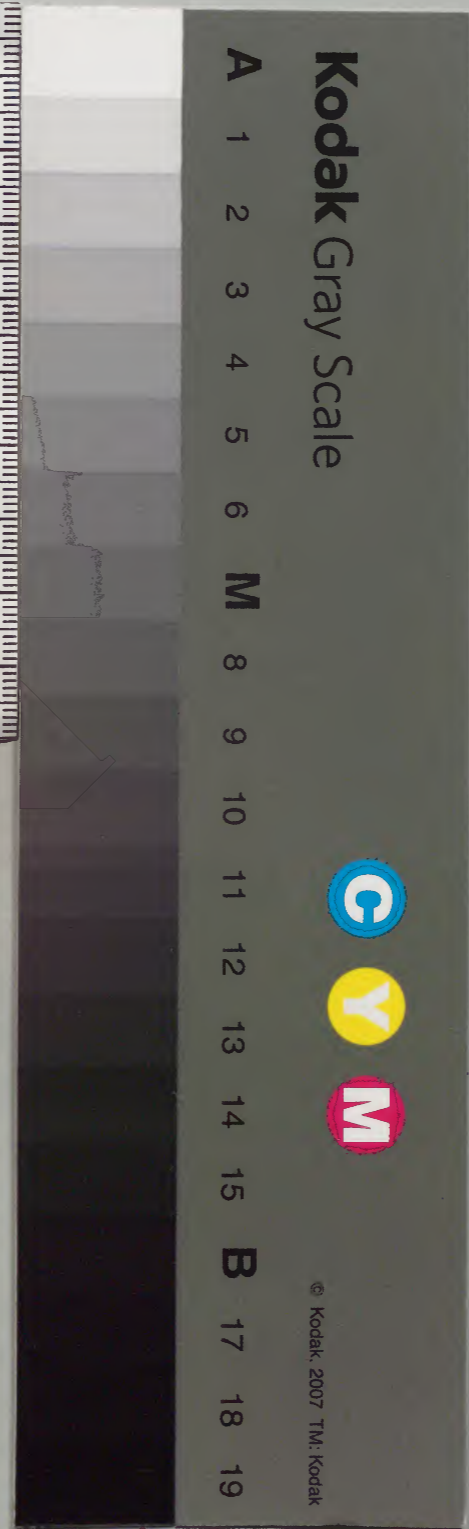


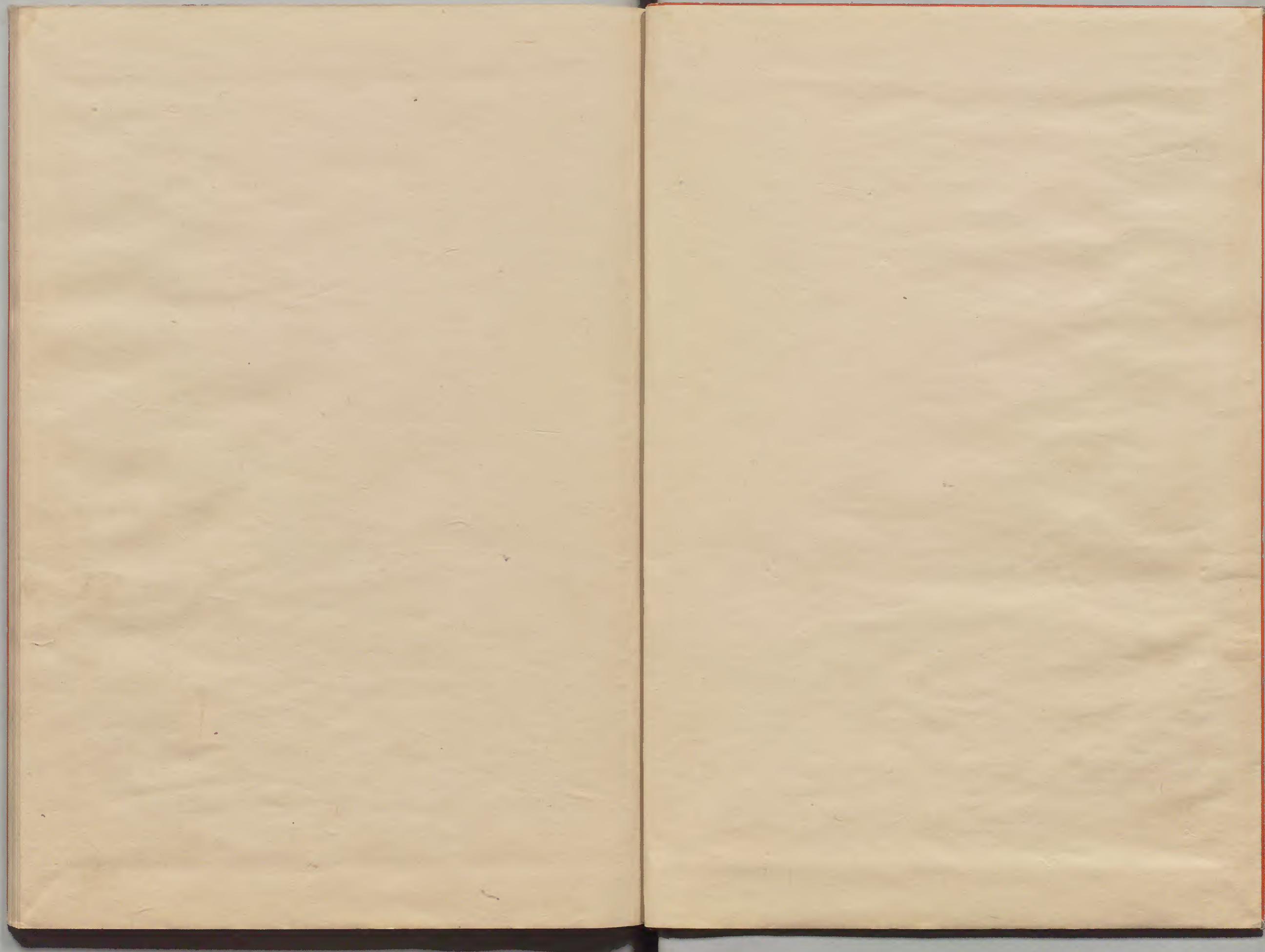
和書門

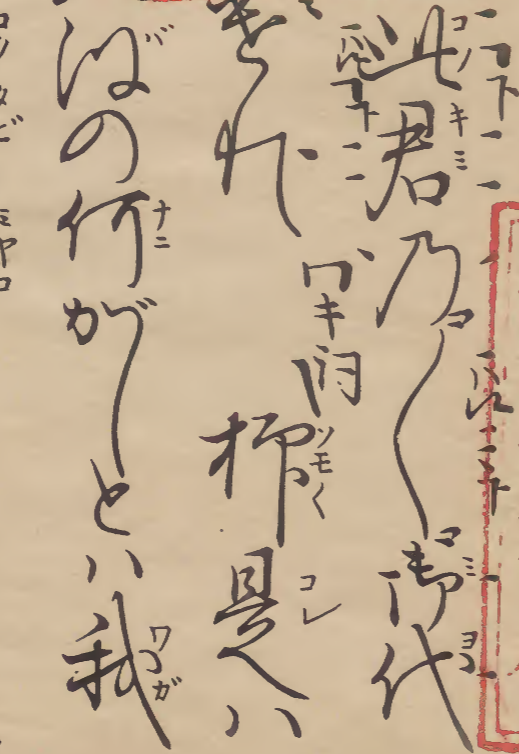
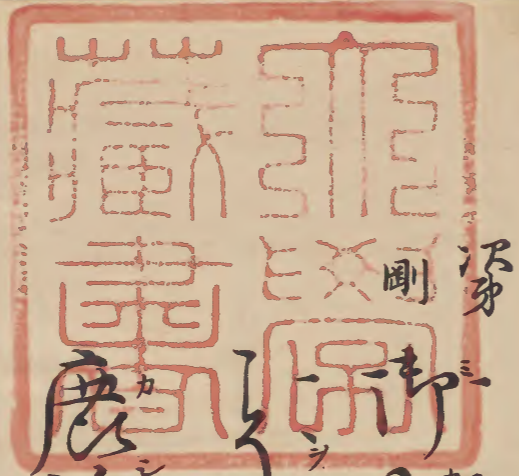
和書門			
二	一	二四七	二
一	六	二九	二
二	六	九	二
冊	架	函	號

內閣文庫			
九	四	和	
九	二七	書	
函	二		
一	九		
架	冊	號	類

內閣文庫
 番號 和 24729
 冊數 212 (102)
 函號 199 216







不弟

剛

影を
あ
君乃
代

志づ
あり
きれ
柳是ハ

鹿鳴の社職筑波の竹がとハ我

ふりありらても此度都よのほり

洛陽乃寺社跡もあくとぐこめぐりて

又今日南まはりよそ山間の情

よき事やらむと好作

浅草二八庫

あゝ都乃山のあゝほりきく
ききもらごあまの山伏の
里もきくめ身羽の細道うち
ひそく渡りけり橋かけまくも
や神まらふ中藩山
よもきくはきりく
の生るるまふつに浪よ月もるかぶ

や秋乃水 山松の代までも
神のめぐみの聲やとま回
波をらめ人波とる音とす
め悪代こすす直ある清代のた
りありかぶぐあよままおむ
いよ徳よすんきくばらるもこ
きよもちつたのづかきくぞん

乃よきいしとより中涓度の利益
ひきりつものかろ淨影乃道
えろま極ひ乃海のうろづの生と
しきるものハ皆豊ある代よ
まむとも偏よ当社乃淨利生
あり切法えて年も干早振
神の浄前よ法で来てこの

浄代よ照月乃乃ハ情山
宮路ハ突も久々の雨法ら
るほして枝をあらぬ松乃
内子代の勢のこやまよ
だままるる社りもく
是もある翁よ専ぬべき乃乃
こある乃乃よて候り行乃よ

今日ハ情乃淨神事と
て皆清淨也つらいつら
魚ノ限生する魚をとら
へたり殺生乃わげ不審
宥不審ハ清とらり今日
神事とを何と云ふし
ていづらんは是ハ
ていづらんは是ハ

始て善行しては行よ
をばきぞいハ此清神事
放生會とハつらすや
ら放生會とハ生るを
清淨入此魚の
たるを其ま
よたふらんは女ありきぬ

子宣ひり 其と故人乃れんと
きくよ 方便の殺生を苦薩乃
萬劫もこゆるとよましてや
これに生るともあては魚のうれ
我い又かけてちひのあこよも
おぬ神乃恵とあぶぐあり
實有経る少ゆるからてく當

社放生會のいれいめあふ
やらん 異回退治の時よ
多くの敵をほろり終ひし退
福の爲ためよ放生乃清淨を
こい経よ 甲しれを女ハ若経や
らそくまるともあつあるは
まの程やらん 清後山此小の

乃水も濁らぬ神徳の 用掛ひも
蓄き石清水の 末いひとろが
此川の 用掛よ後て 水桶よ
とろ入し 濁らぬと放しんと
しつゝも 濁らぬと袖いぢて
もつや水桶と水底に泥むま
魚はよろこびおもしろやと穿

て 用掛の 潭荷 動具 魚の
あふ有様乃 実も 生ると
けある 濁らぬ あらにありきり
用掛 菅社の 濁らぬ 懸し 濁物語
用掛 権高社と 欽明天皇
の 濁らぬ 百年の 年と 経
て 豊前 回字 佐乃 社より 此

宗よりながたなりコトのヨシニハハ
るるびやうり神として清代
と守り國家をきづめ文武二つの
道いろく都よつて懐山神
の清名もハつり文字シ一ニ諸佛
生世乃ほんらうツルきんきやうぬ
あやうの道ツルをきめらうツルきやう

だがをあらう人佛不二乃心
よそ直乃がうべよわどり終よ
人乃回より我五他乃人ありも
我人とらうりせ終よ清めく中空
有経や我おごとき乃清まき
迷いを照し終るの真に抄終
まのりしを中行教和尚乃清りので

うきまゝし清き花の都よりつ
らんと南の山よとむ月のみり
もこつり衣平よりり終て
らまじよや宗廟の光あき
かよ君が代りもある道のま
きて田富民乃か後とまでよ
り秋乃清調みりよ海も志づ

かあり多利益諸生乃清き
二世安樂の神徳ハ新業行や男
山よ松たてる權も草も吹代ハ
皆空相の響きよて殿乃山づ
そり那里神樂らむをの心涼しく
夜聲もいと神らびて月影
るよ乃石清水の清らぬらむ

くぬ家あふかきぬ撫むらあ
かきありとよ老人のく
ほど委す物語神のつぎやあり
縁や代しよかへて古入も二
百余年の春秋を
て神徳をあよぎ清代を
高良の神我ありと名のりも

あす男山鳩の杖よまがりて山
らしてより山とてより
わけてらせ代よかきぬ男山
あふ殿より伊勢のらわよ
てくまもあきえとよよ
の聲すまのほるき
有縁や百五守護の日の光曲よ

照も天下に萬代のあきあき
和光の影もあきらかに
とよつかりなる高ら良乃神と
我らあり未だたのく出現
きてきよまらえり放生會
乃こゆるをともやむれむ
ふ飛ゆる鳩乃飛山下よつ

あるをよと子ハ小忌の衣乃袖を
つね舞かふるや天をとめ
久し乃月のうらの男山
をま影とらか
や舞の袖切神代はむめたらよ
喜い衣をぬぎておゆる喜
藝樂とまらうよらそ又夏乃

御遊びはらふる舞をまひ終ふ
袂涼しきの水ようかびてこゆる
らるるる傾杯樂をまづらふ
始そあぐれおもゆる風の音
よぞろくいたがまお舞乃柏子う
ハキキきぬと目よいらわくにみくぞた
ちうん樂をまづらふよ
目較もつる

大官人乃からすある
やまぶきもろともよはえあう冠と
のたりもきて若せぬ乃大庭よ小
庭樂をまよとわかやうをらま
まる代あは泰平樂を舞うか

下・物モノ・萬マン・師シ・とト・福フク・子コ・あア・らラ・舞マ・曲ク・のノ・道ミチ
ふフ・めメ・でデ・たタ・たタ・くク

